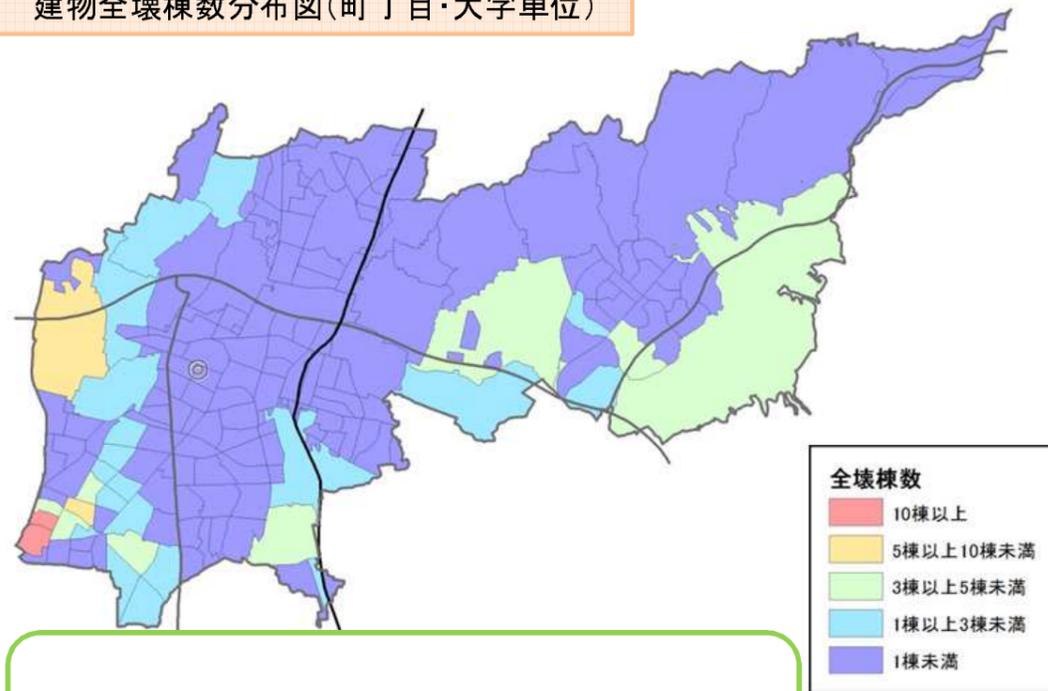


# 被害想定分布状況(南海トラフ巨大地震)

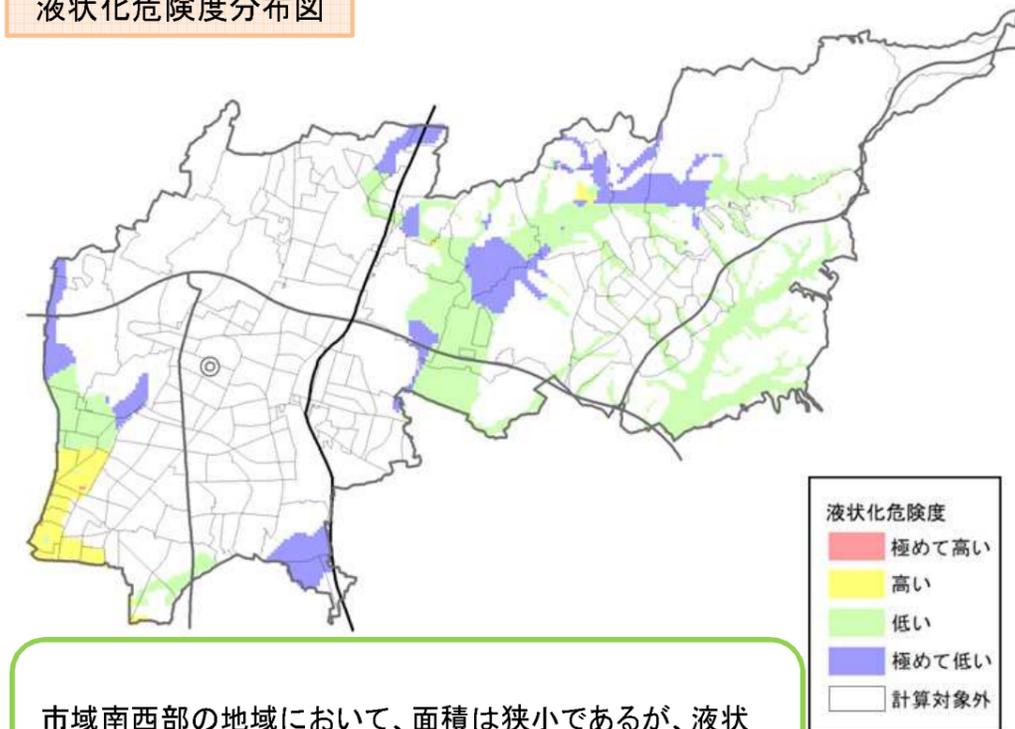
参考資料1-2

建物全壊棟数分布図(町丁目・大字単位)



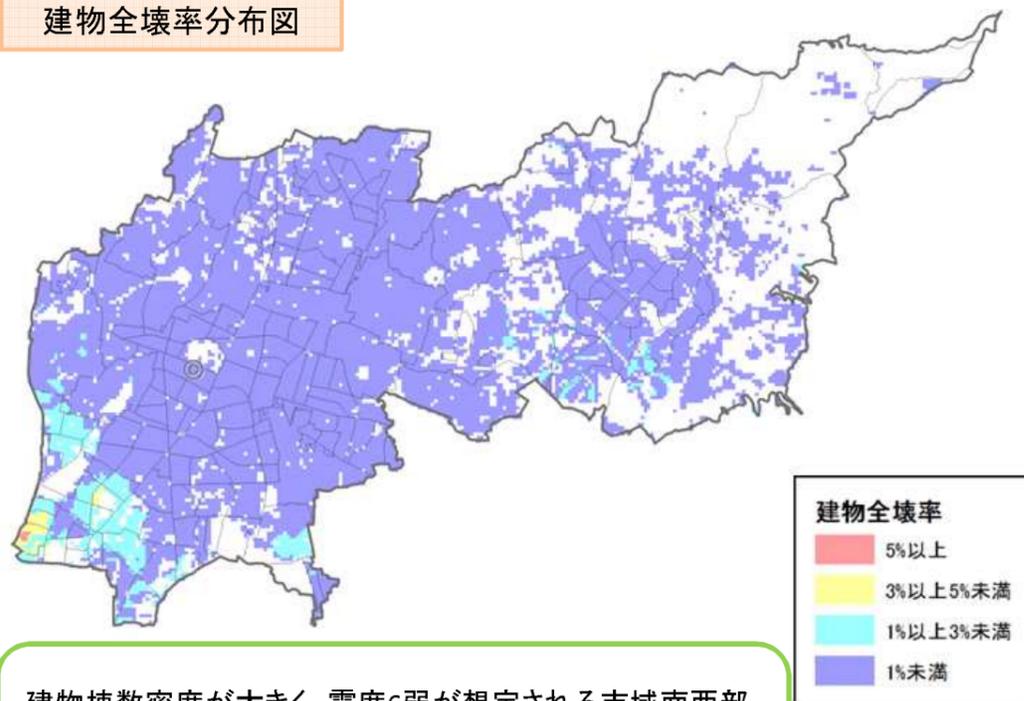
震度6弱が想定される地域が含まれる市域南西部の藤島町居屋敷が最も建物全壊棟数多く15棟と予測されている

液状化危険度分布図



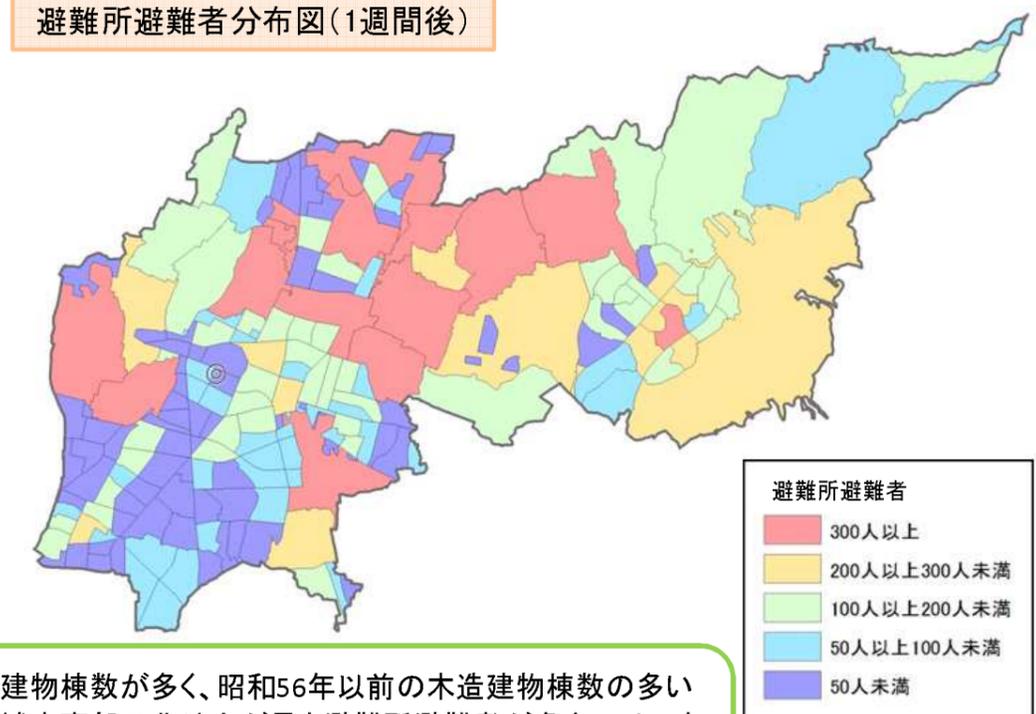
市域南西部の地域において、面積は狭小であるが、液状化危険度の程度が極めて高いと予測されている

建物全壊率分布図



建物棟数密度が大きく、震度6弱が想定される市域南西部で高く予測されているが、多くの地域で1%未満となっている。

避難所避難者分布図(1週間後)



全建物棟数が多く、昭和56年以前の木造建物棟数の多い市域中南部の北外山が最も避難所避難者が多く492人、次いで同様の理由で岩崎の425人、久保一色の405人と予測されている